

★雑誌『良民』は、明治44年2月、山本瀧之助の個人雑誌として、竹久夢二、河本龜之助らの

協力のもとに創刊した。「地方青年」であった彼等三人のえがく「良民」とは何か？

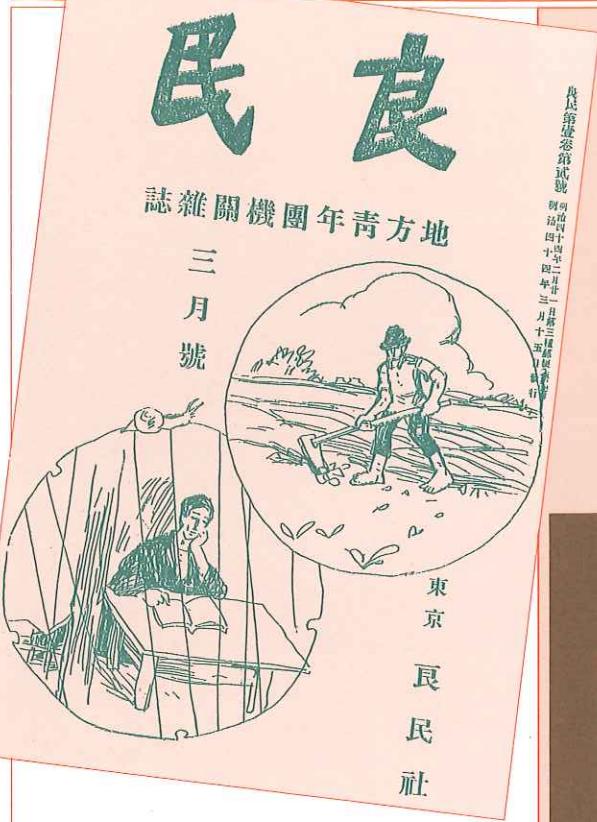
「大正デモクラシー」の生成期に登場した本誌は、近代日本の青年・壯年層の社会教育の上で貴重な資料を提供している。広島県の山本家所蔵の原本をもとに、全号を復刻。——不一出版

## 山本瀧之助 編輯

### 復刻版

# 良民

全9巻・別冊1



『良民』第1巻第2号（明治44年3月）の表紙。  
画は竹久夢二のえがく「晴耕雨読」。この号より  
「地方青年団機関雑誌」の文字が入る。

- 内容——明治44年2月→大正8年12月／総107冊
- 概要——A5判・上製本・総4、356頁
- 別冊——解説・総目次「分売価格1,000円+税」
- 解説——多仁照廣（敦賀女子短期大学教授）
- 刊行時期——'98年10月一括刊行
- 価格——本体単価150,000円+税

## 『良民』を読みかえし、現代に生きる心の糧としたい

小川 利夫・名古屋大学名誉教授

二一世紀への夢と不安が入り乱れている昨今、畏友多仁照廣さんの手によつて『良民』（創刊、明治四四年二月）終刊、大正八年一二月）が復刻されるのは、大へん喜ばしく、画期的な意義をもつ。

第一に、『良民』を一人で編集しつづけた山本瀧之助は、明治「田舎青年」の叫びを代弁しつづけた代表的な人物として、大学の卒業論文以来、私自身が注目しつづけてきたが、多仁さんの瀧之助研究は、私などよりは、はるかに深く、鋭いことが、『良民』の復刻版の編集をとおして、いつそうはつきりしている。

第二に、そこで多仁さんの言葉を借りていえば、編集を瀧之助、挿絵を竹久夢二、そして出版元の河本亀之助の三人は、「ともに、幕末・明治前期の時代の搖籃期に生まれ」、同郷のよしみもあつて力をあわせて刊行した『良民』は、この三人が活動した時代を表現しているもの」として注目されるといつてよい。そして、そこには瀧之助の、夢二の、さらに龜之助らの生きざまの新しさの発見があるにちがいない。

いいかえれば、復刻された『良民』をとおして今から一〇〇年近くまえの世紀転換の時代に、それぞれにユニークに、しかし、ともに新しい世紀への夢と不安に生きた先達たちの姿をとおして、私たちは、現代に生きる心の糧をううことができるであろう。



## 明日を切り拓く一助としての『良民』

金原 左門・中央大学教授

わたしたちのまわりには、幻の雑誌、稀覯本とみなされるものが実に多い。『良民』もその一つである。この雑誌は、わたしなども若いときから注目していた地方青年のリーダー山本瀧之助とともにその名を知つてはいた。しかし、現物を手にした人はごくわずかではないか、と思う。このわたしも例外ではない。今回、瀧之助の長男・山本正次氏所蔵の原本を底本として、この道の第一人者多仁照廣氏の手で『良民』が復刻されることは、まことに喜ばしい。また今日のよう、若い世代にひろがっている砂のごとき「大衆」化症候の時代状況とてらしあわせても、この企画は意義ぶかいものがある。

『良民』が、糾余曲折の経過をたどり瀧之助の個人雑誌として刊行されたのは、一九一一年（明治四四年二月）から一九一九年（大正八年一二月）にかけてである。ほかならぬこの時期に、『良民』が小冊子ながら月刊誌として日の目をみた事実は無視できない。このころ、國家の屋台骨は大きく揺さぶられ、「開かれた社会」をもとめる潮流がひろがりはじめていた。『良民』は、この新しい時代のうねりともいうべきデモクラシー状況とからみをもつていたのである。

「開かれた社会」関係の底流を支えていたのは、「地方」であり、「青年」であった。瀧之助は、「田舎青年」の若々しい土着エネルギーのもつ価値を、経験をつうじ誰よりも熟知していた。このことは、竹久夢二のえがく画のイメージとともに、雑誌名に託した瀧之助の「良民」觀によくあらわれている。そこには、憲法擁護と自治に自覚め、共同・協力の精神に根ざし、職分をわきまえてそれぞれの実業に励み、生活秩序をつくりだす像が浮かびあがってくる。革新に組み替えることのできる発想といえよう。この觀念こそ、帝国在郷軍人会の事実上の生みの親であり、官製的青年団の創出を目論んだ陸軍の田中義一の「良兵即良民」論と対立する。

この意味でも、瀧之助の『日記』とか、この『良民』のレンズをとおして「大正デモクラシー」の生成期の時代相をとらえなおすことも可能になった。そしてなによりも、この『良民』を現在で読みこなすことこそ、わたしは、明日を切り拓く一助になると考へている。この雑誌の翻刻を広く江湖に推奨したい。

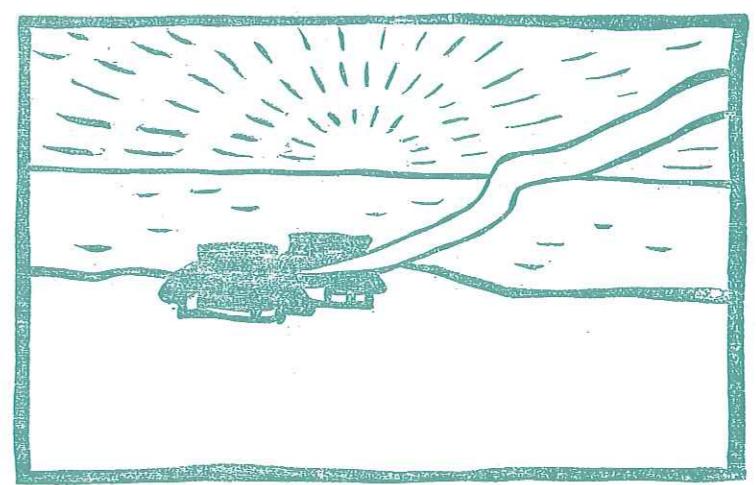
## 「良民」の世界を問う質す場

大濱 徹也・筑波大学教授

日露戦争後の青年は、「憂國」「愛國」の世界から解き放たれ、「成功」「煩悶」に囚りこまれていきました。田舎青年は、実業による「成功」を夢想しながらも、山間僻邑の郷土を脱出する術がないまま、いかに生きるかといふ問い合わせがされていました。そこでは、虚偽の社会の處世術を求めるのではなく、自己を生み育てた大地と共に生きることで、明日を手にいれんとの思いが田舎青年の心として問いかれていました。

雑誌『良民』は、こうした田舎青年の心によりそうことで、いかに生きるかを説かんとした地方青年団の機関誌です。そこでは、町村自治を担うにたる青年として、明日の日本の活力を生み育てるための提言と活動の諸相が紹介されています。そうした青年の姿は、第一巻第一号の表紙が竹久夢二の描く「晴耕雨読」であり、農作業の合間に若い農民夫婦が子に乳を含ませて平和な牧歌的情景を描いた挿絵が二度描かれていますように、平和な村で大地を踏みしめて生きることこそが「良民」の原像であるとの思いにほかなりません。

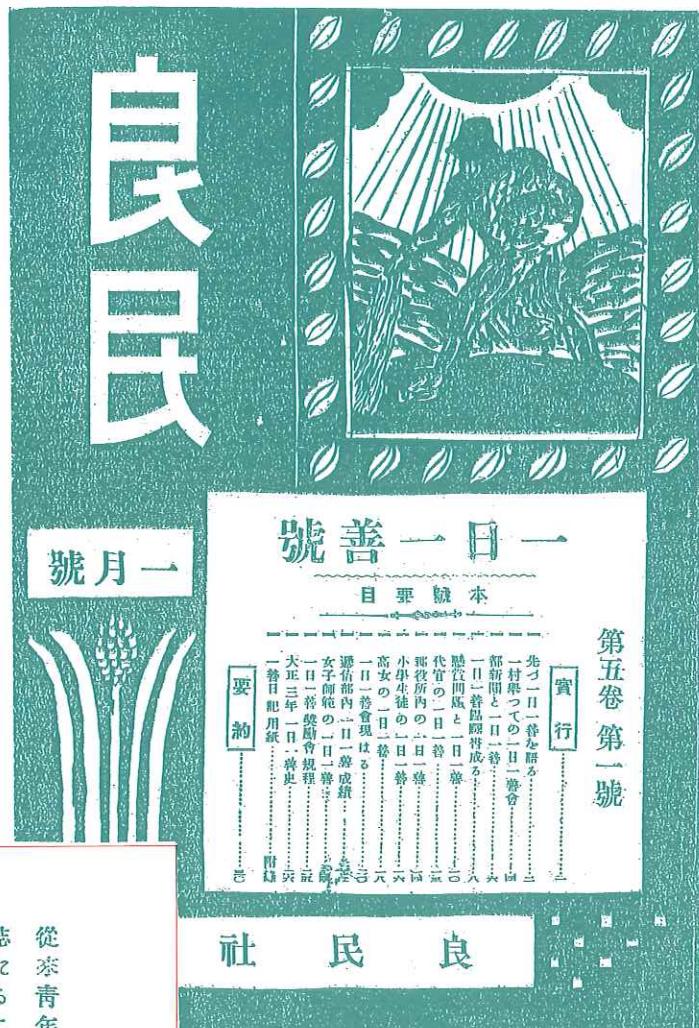
ここには、第一次大戦とロシア革命の波に翻弄される一九一〇年代の農村社会にあって、良民たる道をめざすこと、大地を踏みしめて生きんとした青年の心を問い、理想の田園生活、理想の家庭像を具体的に解き明かすことを可能としてくれます。この課題は、『理想之村』『理想之家庭』を説く石田伝吉に農村行脚をうながした熱気のみならず、道義国家の確立をめざす田沢義鋪の修養論をささえた世界を読み解く作業にほかなりません。それは、「良兵良民」イデオロギーで呪縛された「良民」像をして、原初的な姿で良民を問う質す時、はじめて視えてくる国民像にほかなりません。『良民』復刻に期待大なるものがあります。



復刻版『良民』内容見本

縮小しています。

良民第五卷第一號 明治四十四年二月廿一日  
大正四年二月十五日 行  
(第三種郵便物認可) 月刊十五回目



「良民」第5卷第1号(大正4年1月)表紙→

從來青年雑誌の多くは、名は青年雑誌といふと雖も、其の實は必竟學生雑誌たるに過ぎず、特に地方青年會の爲めに企たれたりと稱するものにありても、尚ほ此の嫌あるを免れざるが如し、「良民」は聊か此の欠點を補はんが爲めに創刊せるものにして、要するに地方青年自身が手に取りて自ら讀むに適するものを作らんことを志せるなり、其の内容の如きに至りては題名の『良民』の二字自ら之れを示すもあるべく、全く地方の青年に對して最も穩健なる知識を受け及ばずながら其の實踐を指導せんことを以て唯一の目的とするものなり。「良民」は如是今僅に初號を出したるのみ、されど其の根底の甚だ深きものあるを自ら言はんと欲するの情に堪えず、願はくは大方諸賢の厚き贊助に依りて、此の目的に自ら副はんことを創刊の辭として特に一言を述ぶるものなり。

明治四十四年二月十一日

良民社

←『良民』創刊号(明治44年2月)より

# 近代社会教育史料集成

①～④

①～④不二出版発行・発売  
②～④日本青年館発行  
不二出版発売

## ① 壮年團全7巻・別冊1

昭和10年～16年／総5、152頁  
A5・B6判／上製本／解説II北河賢三／復刻版  
別冊II解説・総目次・索引（分売価格1,000円+税）

## ② 山本瀧之助全集

昭和6年12月／総1,250頁  
A5判／上製本／解説II岡田洋司／復刻版

## ③ 大日本青年團史

昭和17年8月／総776頁  
A5判／上製本／復刻版

## ④ 大日本青少年團史

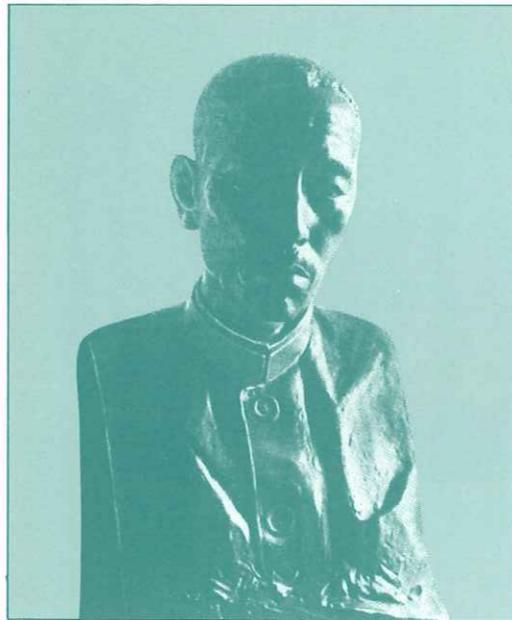
昭和6年12月／総1,250頁  
A5判／上製本／復刻版

## ⑤ 山本瀧之助日記

多仁照廣編・解題／全4巻  
菊判／上製本／総1,510頁（日本青年館発行）

## ⑥ 田澤義鋪選集

A5判／上製本／総1,140頁（日本青年館発行）



山本瀧之助 明治6(1873)年広島県の農家に生まれ、小学校教師を経て明治32(1899)年「日本青年会」を組織し、以後、青年団運動に邁進する。「日本青年団運動の母」と言われた。昭和6(1931)年歿。

## 復刻版 良民 全9巻・別冊1

### ●復刻版概要

○内 容——明治44年2月～大正8年12月／総107冊

○概 要——A5判・上製本・総4、356頁

○別 冊——解説・総目次「分売価格1,000円+税」

○解 説——多仁照廣（敦賀女子短期大学教授）

○刊行時期——'98年10月一括刊行

○価 格——本体価格150,000円+税

### ○推薦人——

小川 利夫

●名古屋大学名誉教授

金原 左門

●中央大学教授

大濱 徹也

●筑波大学教授

本カタログ中の表示価格は、全て本体価格です。

不二出版

『良民』第2巻第3号（明治45年3月）の表紙

良民 第2巻第3号

明治45年3月25日第三種郵便物認可



號 參 第 貳 卷 第  
京 東 社 民 良

東京都文京区向丘1-1-1  
TEL 03-3812-4433  
FAX 03-3812-4464  
振替 001602194084